

(訳文: バイテク情報普及会)

「Séraliniらの試験の結論は、データによる裏付けがない」と、EUのリスク評価機関。

欧州食品安全機関(EFSA)プレスリリース
2012年11月28日

Séraliniらの論文に示された試験の設計並びに手法には重篤な欠陥がある。すなわち、これらは容認可能な科学水準を満たしておらず、よって、過去に実施された遺伝子組換えトウモロコシ NK603 の安全性評価を再検討する必要はない。この結論は、欧州食品安全機関(EFSA)並びにEUの6カ国が、2012年9月19日付のFood and Chemical Toxicology誌に掲載されたSéraliniらの論文に対し、それぞれ独自に評価した結果、導かれたものである。

EFSAは本日、遺伝子組換えトウモロコシ NK603、並びにグリホサートを含む除草剤の潜在的な毒性について懸念を示したSéraliniらの論文について、最終的な評価を発表した。当論文では、これらの物質の投与とラットにおける腫瘍の発生頻度の増加との関連性が示唆されていた。

EFSAは当初の評価において、当論文に概略されている試験の設計や報告、解析は不適切であり、著者らが導いた結論は科学的に妥当とは見なされないと判断を示したが、今回の最終評価で、その判断が再確認された。すなわち、供試されたラットの腫瘍の発生に関し有効な結論を導き出すことは不可能である。Séraliniらの発表した情報に基づき、EFSAは、以前に実施されたトウモロコシ NK603 の安全性評価を再検討する必要性は無く、現在実施されているグリホサートの評価において、Séraliniらの提示した所見を考慮する必要性も無いものと判断する。

EFSAの評価を主導したPer Bergman氏は「EFSAの分析によって、Séraliniらの論文には幾つかの欠陥があり、リスク評価に用いるには科学的な質の点で不十分であることが判明した。これに加え、数カ国の機関がEU加盟国の委任により、この試験について其々独自に評価を行った。これら機関のレビューは、Séraliniらの結論は発表論文に示されたデータでは裏付けられないとする、EU域内各国のリスク評価機関の大多数の総意を、立証することとなった。今回の評価プロセスが完了したことにより、論文の問題点が明瞭になったものと考えられる」と述べた。

広範な総意

EFSAの最終文書は、EU加盟国の6カ国の機関(ベルギー、デンマーク、フランス、ドイツ、イタリア、オランダ)が其々独立して行った評価について、考慮した。これらの評価報告書は、EFSA文書に添付され公表されている。

EFSAは、Séraliniらの結論は論文に示されたデータでは裏付けられないとのEU加盟国の評価を受け、欧州において広範な総意が形成されたと述べている。4カ国の機関による評価は、この論文はNK603並びにグリホサートのリスク評価について再検討すべき必要性を示す十分な科学的データを提供していない、と結論付けている。フランスのHigh Council of Biotechnologyとイタリアによる評価は例外で、これら機関はこの点について検討していない。

加盟国は、また、EFSAの指摘同様、この論文の方法論や試験設計に多くの問題があることを指摘している。試験目的が曖昧であること、各投与群の供試ラットの数が少ないこと、飼料や投与成分について詳細な説明が無いこと、用いられた統計学的解析方法について鍵となる情報が記載されていないこと、エンドポイントの報告が不完全であること、これらの点について全ての加盟国機関が特記している。

サンプル数の不足

レビューの実施に際し、EFSAはSéraliniらに対し、試験記録に係る情報を更に提出する様に要請したが、EFSAの今回の声明発表に至るまでに、何らの資料も提出されなかった。しかしながら、Séraliniらは、2012年11月9日付けで、氏らの論文に対し世界中から寄せられた反応に応える形で、一般的な文書を発表した。EFSAは、この

Séralini らの発表内容を慎重に検討した結果、関連性のある情報はごく一部に過ぎず、EFSA が当初の声明で示した様々な疑問点のほとんどに対し回答とはなっていない、と結論付けた。

Séralini らは「批判に対する回答」文書の中で、長期の発がん性や死亡率について結論を導くには、投与群の供試サンプル数が少な過ぎたと述べている。著者らのこのような認識は、著者らが論文で報告した腫瘍の発生や死亡率についての全般的な結論と、食い違っていると EFSA は指摘した。

EFSA による Séralini らの論文の検討は、遺伝子組み換え生物のリスク評価を行うため、関連の科学文献すべてを検証するという EFSA の使命に沿うものである。EFSA は、今後とも関連文献の調査を継続的に実施していく方針である。

[Final review of the Séralini et al. \(2012a\) publication on a 2-year rodent feeding study with glyphosate formulations and GM maize NK603 as published online on 19 September 2012 in Food and Chemical Toxicology](#)

報道関係の問い合わせ窓口:

EFSA Media Relations Office

電話: +39 0521 036 149

電子メール: Press@efsa.europa.eu